

近代水道の歩み

正保元年 高松に「高松水道」が造られる
(1644年)

明治23年 「高松市」が誕生する(全国で40番目の市)
(1890年)

明治28年 香川県内でコレラが流行し、多数の死者が出る
(1895年)

明治30年 英国人技師バルトンに水道調査を依頼する
(1897年)

大正3年 内務省(現・総務省)から認可を受け、上水道敷設事業が始まる
(1914年)

大正10年 「御殿水源池」が完成し、高松市で近代水道が給水を開始する
(1921年) [\(全国で40番目\)](#) ←←← **A** 前ページの答え

昭和2年 「楠上浄水場」が完成する
(1927年)

昭和27年 「内場ダム」が完成する
(1952年)

昭和29年 「御殿貯水池」が完成する
(1954年)

昭和30年 綾南町で近代水道が給水を開始する
(1955年)

昭和34年 「浅野浄水場」が完成する
(1959年)

昭和38年 三木町で近代水道が給水を開始する
(1963年)

昭和42年 「川添浄水場」が完成する
(1967年)

昭和48年 「高松砂漠」と言われる大渇水が起きる
(1973年)

昭和49年 早明浦ダムを水源とする香川県営水道用水供給事業からの受水始める
「楠上浄水場」を休止する(その後廃止)

昭和50年 「早明浦ダム」が完成する
(1975年)

昭和51年 綾上町で近代水道が給水を開始する
(1976年) 女木島と男木島へ給水船による送水始める

昭和60年 御殿水源池が近代水道百選に指定される
(1985年)

昭和61年 御殿水源池の施設老朽化のため、隣接して建設された管理棟に業務を移す
(1986年)

昭和62年 御殿水源池を「水道資料館」としてリニューアルする
(1987年)

平成6年 「列島渇水」と言われる全国的な渇水が起きる
(1994年)

平成9年 水道資料館が国の「登録有形文化財」に指定される
(1997年) 女木島と男木島へ海底送水管による送水始める

平成18年 綾上町と綾南町が合併し、「綾川町」が誕生する
(2006年)

平成21年 「香川用水調整池(宝山湖)」が完成する
(2009年)

平成30年 「香川県広域水道企業団」が事業を開始する
(2018年)

令和2年 「高松ブロック統括センター」が始動する
(2020年)

ひ ら く

大正時代

近代水道の創設

高松市では、明治30年に水道調査を行った後、大正3年から近代水道創設事業に着手しました。第一次世界大戦や米騒動などの影響などで事業は大きく遅れましたが、大正10年9月に市民待望の近代水道が給水を開始しました。



▲創建当時の御殿水源池

ま も る

昭和・平成

幾度にもわたる拡張事業 ～渇水との闘い～

高度成長期になると、水洗トイレやお風呂が各家庭に普及し、一人当たりの使用量は大幅に増加しました。高松市では、水需要の増加に対応するため幾度にもわたる拡張事業を行い、様々な水源を確保するとともに、浄水場の増強や新設も行いました。



▲昭和48年渇水時の応急給水

しかし、元々雨が少なく、大きな川もない高松市では十分な水源の確保が難しく、度々渇水に見舞われていました。

そのため、平成21年に緊急時の水道用水補給を目的とした宝山湖が完成し、令和3年度には塩江町に建設中の椋川ダム本体工事が完成予定であるなど、安定給水の取り組みが続いています。

安定給水のための取り組み

早明浦ダムの完成や香川県営水道用水供給事業からの受水により、香川県内の水需給バランスは大きく改善されました。

しかし、その後も何度か大きな渇水に見舞われるなど、気候変動の影響で利水安全性が低下しており、渇水の不安が解消されたわけではありません。

そのため、平成21年に緊急時の水道用水補給を目的とした宝山湖が完成し、令和3年度には塩江町に建設中の椋川ダム本体工事が完成予定であるなど、安定給水の取り組みが続いています。



椋川ダム
有効貯水量
1,029
万m³

つ な ぐ

安全・安心・安定を次の世代へ

平成・令和

今、全国の水道事業は、人口減少により収益が減少する中で、老朽化が進む水道施設の大量更新や災害への備えのほか、職員の技術継承をどう図るかなど、多くの課題を抱えています。

香川県では、これらの課題を解決するために「水道事業の広域化」を行うこととし、平成30年には、直島町を除く県内の全市町と県の水道事業を承継した「香川県広域水道企業団」が事業を開始しました。

市町の区域を越えた事業運営の効率化や水道施設の統廃合を行うことにより、安全・安心な水道水の安定供給を次の世代へつないでいきます。

香川県広域水道企業団・シンボルマーク

香川(Kagawa)の「K」、水を表す「水滴」、安全・安心(Safety)の「S」、それら3つの要素で水道水の未来・安定的な供給を表しながら、一つにつながる意を込めた「α(無限)」で構成されています。



令和3年度の主な事業をお知らせします



水道企業団では、安全・安心な水道水を安定してお届けするために、優先順位を決めて水道施設の更新や耐震化を進めており、今年度は主に次の事業を予定しています。

工事中はお客さまにご迷惑をお掛けしますが、ご理解・ご協力をお願いします。



●浅野浄水場普通沈でん池築造工事

場所	高松市香川町浅野 (浅野浄水場内)	工期 (予定)	令和3年～ 令和4年度中
概要	既存の普通沈でん池老朽化のため、新しく建設します。		

●高松市木太町口径400mm配水管耐震補強工事

場所	高松市木太町ほか (詰田川下橋)	工期 (予定)	令和3年6月～ 令和4年1月
概要	詰田川下橋に架けられた配水管(水管橋)に、耐震補強部材及び落橋防止装置を設置します。		

●配水管布設替工事

概要	高松市・三木町・綾川町内の各所で、古くなった配水管を耐震管に取り替えます。	今年度に取り替えを予定している配水管の総延長			
		高松市	15,311m	三木町	1,760m

大正10年に完成した「御殿水源池」は、今もなお、ほぼ創建当時の姿をとどめています。昭和61年に浄水場としての役目を終えた後は、高松市の水道の歴史をご紹介します「高松市水道資料館」として活用しています。

国の登録有形文化財に登録されるなど歴史的・文化財的な価値も高いことから、近代水道の歴史をつなぐ場所として、今後も適切な管理・運営を行っていきます。

【大規模改修工事のため6月頃から休館予定です。ご来館はお早めに!】



高松市近代水道誕生100周年記念行事 高松市歴史資料館にて開催中!

高松市歴史資料館収蔵品展

「近代水道への胎動 -城下町高松の上水道-」

【同時開催】「高松市近代水道成立100周年記念 高松の上水道」パネル展
※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更となる場合があります。

開催期間 5月1日(土)～6月27日(日)

開催場所 高松市歴史資料館 企画展示室

観覧料 一般:200円 大学生:150円 高校生以下は無料

お問い合わせ先

高松市歴史資料館 TEL.861-4520
高松市昭和町一丁目2-20サンクリスタル高松4階

【休館日】月曜日(休日の場合は翌平日)
【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)